

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104449
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム であい
所在地	松山市余戸南5丁目3-18
自己評価作成日	平成22年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 12 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『和み』の場であり利用者様がゆったりと過ごしていただけている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は総合福祉施設の1階にあり、地域の介護教室や運動会を行うことのできる大広間、喫茶コーナー、中庭や畑、花壇などを活用することができる。利用者が和やかな雰囲気の中で穏やかに過ごすことができるよう、職員は情報を共有しながら協力し合っている。法人で教育研修、事故防止・災害対策、感染症対策などを実施し、職員の資質向上、ケアの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム であい

(ユニット名) 桜の宿

記入者(管理者)

氏名 長岡 千里

評価完了日 平成22年 11月 14日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念をユニットに掲示し職員全員が共有してサービスにつなげている	
			(外部評価) 開設時に掲げた理念に基づいてケアを実践してきたが、開設から5年が経過したことをうけ、新たな理念を作り更なるサービスの向上に取り組んでいる。理念を作る過程を大切に職員間で十分に協議し、職員全員の総意としての理念を掲げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域のボランティアの方に慰問して頂いたり他施設との交流を深めている	
			(外部評価) 法人として地域住民との交流行事を実施しており、同ホームもその一員として参加している。また、同ホームと同じ施設内にあるケアハウスの喫茶コーナーやデイサービスの参加者との交流も日常的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 介護予防教室を開催したり運営推進会議で支援の方法や対応について話し合いをしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 活動報告、対応方法、取り組みなど報告を行いろいろな意見を頂いてサービスに生かしている	
			(外部評価) 市介護保険課や地域包括支援センターの職員、地区民生委員、老人クラブ会長、家族会代表者等の参加を得て施設長や管理者、職員も出席し活発な意見交換や質疑応答の機会となっている。	多様なメンバーの出席等により、会議内容が充実してきていると思われるが、構成メンバーに町内会の代表者を加える等し、事業所が今以上に地域の理解や支援を得られるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課の方に運営推進会議に参加して頂き情報や意見の伝達を行っている	
			(外部評価) 市介護保険課とは運営推進会議を通して、ホームの実情を細かく伝え意見交換や相談を行っている。また、必要書類の提出時に市の担当者と情報交換できる関係を作っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についての勉強会や身体拘束委員会にて職員全員が取り組んでいる なお、玄関の施錠については総合福祉施設全体のセキュリティの問題もあり、1事業所だけの判断は難しい	
			(外部評価) 身体拘束をしない介護の実践に取り組んでいる。法人内で身体拘束をしないための委員会を定期的に開催し、全職員が日常の具体的な介護の中での気づきを出し合い、質の高いケアの実践に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止法について勉強会を行い職員全員が認識し防止に努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度等勉強会をすると共にそれらを必要なご家族様に情報を提供する等活用している	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) その都度説明を行い利用者家族等に納得して頂いている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会の開催により話し合いの場を設け意見等伺っている (外部評価) 家族の来訪時には必ず声をかけて、家族の思いをくみ取るよう努めている。また、家族会を運営推進会議と合同で開催し、家族の意見を気軽に伝えることができる場となるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月職員会やワーカー会を設け意見を聞いたり日常的に話を聞いている (外部評価) 管理者は、日常的に職員から意見を聞きとるよう心がけている。また、職員会やワーカー会、様々な小委員会を設けて意見や要望、提案を出せる機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 常日ごろより管理者は現場に携わり個々の職員の状況等把握するように努めている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加している	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 包括支援センターが他の事業所との交流の場を備え情報の交換や質の向上に努めている	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人のお話を聞き信頼関係ができるよう勤めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様と話し要望等聞きながら最善の方法を考えている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 支援の方法をいろいろな方向から見極め対応している	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご本人と生活の場として関係作りをしている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人と家族の関係を大切に支援している	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人との関係が継続してできるように支援している (外部評価) ホームに入居する際には、十分な聞き取りを行うとともに、自宅を訪問してどのような環境、地域で過ごしてきたかを把握するようにしている。 また、同施設内のデイサービスに参加している友達の交流等も支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) いろいろなことを皆様でできる様に配慮しお互い助けられるように支援している	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者や家族からの相談には対応しできる限りのことは支援するように努めている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 常に本人本位で考え希望や意向を取り入れた介護を行っている	
			(外部評価) ホーム入居時に把握した思いや希望、要望に加えて日々の生活の中での会話や行動、表情の中から利用者一人ひとりの意向をくみ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の情報収集を行いできる限り把握している	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員全員が朝夕の申し送りや連絡ノートで状態を把握し介護記録にも目を通し現状の把握に努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人家族の意向を聞きカンファを通して現在の状況にあった計画を作成している	
			(外部評価) 計画作成担当者が利用者の状態に合わせて介護計画を策定し、カンファレンスで計画に対する意見を出し合っている。策定された計画は家族に確認を取るようになっている。策定後は月1回のモニタリングを行い計画の見直しを実施している。	チームでつくる計画の重要性を再認識し、家族や関係者の細かな意見や気づき等を盛り込みながら計画を策定することに期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日個別に記録している また、連絡ノートを作成し情報の共有に勤めている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ニーズに合わせた対応を考えグループホームのみならず他との連携を取りながら取り組んでいる	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員と連携し、消防訓練やボランティアの受け入れ近所の医療機関からの往診、理美容院の出前等受け入れ支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご本人のかかりつけ医を尊重し近所の内科医とも連携 をとりながら支援している (外部評価) 家族の協力を得て、かかりつけ医の受診を行って いる。受診には必要に応じて日常の様子などのデータ を提供している。かかりつけ医の受診は、利用者 と家族のふれあいの機会として大切な時間とな っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々の情報を伝達相談しながら適切な対応が できるよう支援している	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療 できるように、また、できるだけ早期に退 院できるように、病院関係者との情報交 換や相談に努めている。または、そう した場合に備えて病院関係者との関係 づくりを行っている。	(自己評価) 病院と情報交換を行うと共に病院へ 赴き話を伺って関係作りをおこな っている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と 支援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し 合いを行い、事業所でできることを十分 に説明しながら方針を共有し、地域の 関係者と共にチームで支援に取り組ん でいる	(自己評価) 本人家族との話し合いの場を設け事務 所での対応方針を納得してもらった上 でチームで支援する (外部評価) 事業所は総合福祉施設の中にあり、 職員や設備面での臨機応変な対応が 可能である。看取りの指針が整備さ れており、家族との話し合いも行わ れている。	職員全員で話し合いを重ね、ホーム の力量を正確に見極めたうえで、家 族、医療関係者と連携した具体的な 支援方法について検討しながら取り 組んで行くことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会や救急法の受講を行い緊急時に活かせるように努力している	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は事故発生時を想定して実践的に行っている 消防署での対応訓練も定期的実施している また、地域へ協力の依頼もしている (外部評価) 消防署の指導による避難訓練を年2回実施している。 加えて火災や震災時の対応についての勉強会を年2回 行い、消火・通報訓練なども行っている。運営推進会 議では、実情を報告し防災士を交えて地域への協力も 依頼している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーの尊重は日ごろより職員に声かけし対応について気をつけている (外部評価) 利用者一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの保護 についての小委員会を設け、日常のケアの場面を例に 挙げながら具体的に確認する仕組みを構築している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で本人の意思が尊重できるように配慮している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご本人のペースに合わせてゆとりがある生活ができるように対応している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 整容には気を配り定期的に理美容の利用を支援している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 唯一の食に対する楽しみを職員と一緒に楽しめるように対応している (外部評価) 総合福祉施設の厨房で調理され暖かいものを温かく、冷たいものを冷たく配膳することができている。調理にあたることのないため、利用者と一緒にゆったりと過ごすことができる。利用者で当番を決めて「いただきます」の声をかけ、おしゃべりをしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 厨房で栄養士がカロリー計算を行いバランスのとれたメニューを考えユニットでは特に水分量や食事量のチェックを毎日行い健康状態の把握に努めている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) その方に合った口腔ケアの実践を行っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 夜間やおむつを脱ぎ紙おむつの使用はあるが日中は可能な限りトイレでの支援を行っている	
			(外部評価) 排泄チェック表をもとに排泄パターンを把握し、トイレでの自立した排泄を支援している。利用者の状況に応じて適切に声をかけ誘導ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 1人1人に応じた対応を考え予防に努めている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々に合った入浴方法を考えてゆっくり入浴できるように配慮している	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて、いつでも入浴できるようにしている。入浴を嫌がる利用者には声かけのタイミングを工夫するなどしている。入浴時間は、利用者との向き合うことのできる大切な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 自然なリズムで睡眠が取れるように体調など把握した上で休んでいただいている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬に対して理解し服薬の支援に努めている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 散歩・塗り絵・ご自身の好みに合わせて支援している	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族にも協力を依頼し外へ出かけられるように支援している	
			(外部評価) 総合福祉施設のバスを利用して、全員で花見や大型ショッピングセンターへの買い物等を楽しんでいる。施設敷地内の畑や近くの川の土手、みかん畑に行く等、散歩は日常的に行われている。また、総合福祉施設内の喫茶コーナーや大広間なども活用し両社の状況に合った支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 毎月ご自分でお買い物ができるように計画しお小遣い程度所持していただき楽しんでいただいている	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 毎月医手紙を書けるように配慮し電話での対応も行っている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 落ち着いた生活ができるように配慮し季節のものの飾りつけを行ったり工夫をしている	
			(外部評価) 居間には季節を感じることで飾り付けがされており、利用者が落ちつける雰囲気作りに努めている。利用者が思い思いの場所で寛ぐことができるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ご自分の思い思いの生活ができるように対応し居室やリビングでの居場所を工夫している	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご本人が以前から使用しているも荷を使っただきなじみの生活ができるように工夫している	
			(外部評価) 利用者の居室には馴染みの家具が持ち込まれたり、家族との思い出の品が飾られており、利用者が落ち着いて過ごせるよう工夫や配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 日常生活の中で不安や混乱を抱くことのないように安全面に配慮し工夫している	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104449
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホーム であい
所在地	松山市余戸南5丁目3-18
自己評価作成日	平成22年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 12 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

重信河のほとり、出会い橋のたもとにある自然に囲まれた高齢者総合福祉施設の1階にあり、ご利用者さまが特養などに移動される際には住み替えのダメージは少ないと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は総合福祉施設の1階にあり、地域の介護教室や運動会を行うことのできる大広間、喫茶コーナー、中庭や畑、花壇などを活用することができる。利用者が和やかな雰囲気の中で穏やかに過ごすことができるよう、職員は情報を共有しながら協力し合っている。法人で教育研修、事故防止・災害対策、感染症対策などを実施し、職員の資質向上、ケアの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム であい

(ユニット名) 梅の宿

記入者(管理者)
氏名 角田 京子

評価完了日 平成 22 年 11 月 14 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念をユニットの中のおよ目につく所に掲示し実践につながるように意識付けしている</p> <p>(外部評価) 開設時に掲げた理念に基づいてケアを実践してきたが、開設から5年が経過したことをうけ、新たな理念を作り更なるサービスの向上に取り組んでいる。理念を作る過程を大切に職員間で十分に協議し、職員全員の総意としての理念を掲げている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の方に演芸ボランティアとして来所して頂いたり近所の他施設との交流を行っている</p> <p>(外部評価) 法人として地域住民との交流行事を実施しており、同ホームもその一員として参加している。また、同ホームと同じ施設内にあるケアハウスの喫茶コーナーやデイサービスの参加者との交流も日常的に行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の高齢者に役に立つように介護予防教室の中でお話をしたり、運営推進会議で支援の方法などお話ししている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 他の事業所の取り組み内容を聞いたり当事業所の取り組みの報告や情報交換を行いサービスのこうじょうに生かしている	
			(外部評価) 市介護保険課や地域包括支援センターの職員、地区民生委員、老人クラブ会長、家族会代表者等の参加を得て施設長や管理者、職員も出席し活発な意見交換や質疑応答の機会となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に介護保険課の方へ出席して頂き運営や現場の実情を伝える機会を作り意見を頂きサービスに生かしている	
			(外部評価) 市介護保険課とは運営推進会議を通して、ホームの実情を細かく伝え意見交換や相談を行っている。また、必要書類の提出時に市の担当者と情報交換できる関係を作っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についての勉強会や身体拘束委員会を通じて職員全員が取り組んでいる なお、玄関の施錠については総合福祉施設全体のセキュリティの問題もあり、1事業所だけの開錠の判断は難しい	
			(外部評価) 身体拘束をしない介護の実践に取り組んでいる。法人内で身体拘束をしないための委員会を定期的に開催し、全職員が日常の具体的な介護の中での気づきを出し合い、質の高いケアの実践に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止法について勉強会を行い職員全員が虐待について認識し見過ごされる事のない様に注意し防止に努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 成年後見制度等勉強会をすると共にそれらの情報を必要なお家族様に提供する等している	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前に時間をかけて説明し利用者さま家族様に納得して頂いている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々ご利用者さまとお話し、家族様が面会に来られた時に話をする機会持っている また、家族会の開催時に話をする場を設け意見等伺っている (外部評価) 家族の来訪時には必ず声をかけて、家族の思いをくみ取るよう努めている。また、家族会を運営推進会議と合同で開催し、家族の意見を気軽に伝えることができる場となるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月職員会やワーカー会を開催し意見を聞いたり二里情的にも話を聞いている (外部評価) 管理者は、日常的に職員から意見を聞きとるよう心がけている。また、職員会やワーカー会、様々な小委員会を設けて意見や要望、提案を出せる機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 常日頃より管理者は現場に携わり個々の職員の状況等把握する様に努めている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修に参加している	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 包括支援センターが開催する交流会に参加し情報の交換やサービスの質の向上に努めている	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時から入居にかけてお話を聞き信頼関係が構築できるように努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時から入居にかけてお話を聞きご本人さまと家族様との意見の違いも含めて理解し信頼関係が構築できるように努めている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) その人に何が必要か見極めたうえで対応している	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 1人1人の機能に応じてできる事を共に行い楽しみながら支えあっている	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様の面会時に生活の様子など報告し連携を密にしている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人と今までの馴染みの関係が継続できるように支援している (外部評価) ホームに入居する際には、十分な聞き取りを行うとともに、自宅を訪問してどのような環境、地域で過ごしてきたかを把握するようにしている。 また、同施設内のデイサービスに参加している友達の交流等も支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者さまが助け合って共に暮らしを楽しめるように和やかな雰囲気になるように努めている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者さまや家族からの相談にはできる限りの情報の提供や支援ができるように努めている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の過ごし方等無理強いにならないようにご本人の意向も伺い支援している	
			(外部評価) ホーム入居時に把握した思いや希望、要望に加えて日々の生活の中での会話や行動、表情の中から利用者一人ひとりの意向をくみ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人家族様からこれまでの暮らしぶりを聞き把握している	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員全員が朝夕の申し送りや連絡ノートで状態を把握し介護記録にも目を通し現状の把握に努めている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月1回モニタリングを行い本人家族様の意向も聞きながら現状に応じたプランを作成している	
			(外部評価) 計画作成担当者が利用者の状態に合わせて介護計画を策定し、カンファレンスで計画に対する意見を出し合っている。策定された計画は家族に確認を取るようになっている。策定後は月1回のモニタリングを行い計画の見直しを実施している。	チームでつくる計画の重要性を再認識し、家族や関係者の細かな意見や気づき等を盛り込みながら計画を策定することに期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録を個別に記録している また連絡ノートを作成し情報の共有に努めている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ニーズと現状にあわせた対応を行いグループホームだけでなく他との連携を行い取り組んでいる	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員と連携し、消防訓練やボランティアの受け入れや近所の医療機関からの往診、理美容院の出張など受け入れ支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) ご本人のかかりつけ医を尊重しそれぞれが家族様動向 で受診されている また、近所の内科医とも連携を取りながら支援してい る (外部評価) 家族の協力を得て、かかりつけ医の受診を行ってい る。受診には必要に応じて日常の様子などのデータを 提供している。かかりつけ医の受診は、利用者と家族 のふれあいの機会として大切な時間となっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々の情報を伝達相談しながら適切な対応ができるよ うに支援している また、看護師不在の場合は同施設内の特養の看護師に 支援をしてもらい連携が取れるようにしている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には病院と情報交換を行い面会にも行き情報を 収集している	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人さま家族様や医師、職員等とで話し合いの場を設 け対応方針を納得して頂いた上でチームで支援する (外部評価) 事業所は総合福祉施設の中にあり、職員や設備面での 臨機応変な対応が可能である。看取りの指針が整備さ れており、家族との話し合いも行われている。	職員全員で話し合いを重ね、ホームの力量を正確に見 極めたうえで、家族、医療関係者と連携した具体的な 支援方法について検討しながら取り組んで行くことを 期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会や救急法の受講を行い緊急時に活かせるように努力している	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は事故発生時を想定して実践的に行っている。消防署が行なう救急法も定期的に受講している。また地域へ協力を依頼している。 (外部評価) 消防署の指導による避難訓練を年2回実施している。加えて火災や震災時の対応についての勉強会を年2回行い、消火・通報訓練なども行っている。運営推進会議では、実情を報告し防災士を交えて地域への協力も依頼している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) プライバシーの尊重は日頃より職員に声かけして対応に気をつけている (外部評価) 利用者一人ひとりの人格の尊重やプライバシーの保護についての小委員会を設け、日常のケアの場面を例に挙げながら具体的に確認する仕組みを構築している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でご本人の意思が尊重されているか自己決定ができるように導き支援できるように努力している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) それぞれの能力に応じた生活ができる様に支援している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人の立場に立って整容には気を配り、着衣等自分で選択できるように支援している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 施設のシステム上厨房で調理をしているが、配膳や食事に関する手伝いができる方にはお手伝いをお願いし、一緒に準備し一緒に食べることができる様に対応している	
			(外部評価) 総合福祉施設の厨房で調理され暖かいものを温かく、冷たいものを冷たく配膳することができている。調理にあたることのないため、利用者と一緒にゆったりと過ごすことができる。利用者で当番を決めて「いただきます」の声をかけ、おしゃべりをしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 厨房で栄養士がカロリー計算を行いバランスのとれたメニューを考えユニットでは水分量や食事量のチェックを毎日行っている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後その方に合った口腔ケアを行い、異常時は週1回往診している歯科医に診察治療してもらっている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表に記入し排泄パターンを把握しできるだけトイレで排泄できるように支援している	
			(外部評価) 排泄チェック表をもとに排泄パターンを把握し、トイレでの自立した排泄を支援している。利用者の状況に応じて適切に声をかけ誘導ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事や運動など1人1人に合った対応を行い予防に努めている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の希望時間を聞いたり個々に合った入浴方法でゆっくり楽しんで頂けるように配慮している	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて、いつでも入浴できるようにしている。入浴を嫌がる利用者には声かけのタイミングを工夫するなどしている。入浴時間は、利用者との向き合うことのできる大切な時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 自然なリズムで睡眠が取れるように日中体を動かして頂き安心して眠れるよう支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬に対して理解し、利用者さまが服薬している薬を把握して支援できるように支援する様に努めている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常的な家事の手伝いや、散歩・塗り絵などご自分の好みに合わせて支援している	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 施設のバスを利用して1ユニット全員での外出や、家族様に協力を依頼して外へ出かけられるように支援している	
			(外部評価) 総合福祉施設のバスを利用して、全員で花見や大型ショッピングセンターへの買い物等を楽しんでいる。施設敷地内の畑や近くの川の土手、みかん畑に行く等、散歩は日常的に行われている。また、総合福祉施設内の喫茶コーナーや大広間なども活用し両社の状況に合った支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現金を小額ながらご自分で管理されている方もおり、お買い物の計画を立てて楽しんで頂いている	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 毎月ご家族様あてにお便りを書いて頂きました電話もできる様に配慮している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間は季節の飾りつけ等を行い落ち着いた生活ができるように工夫している	
			(外部評価) 居間には季節を感じることで飾り付けがされており、利用者が落ちつける雰囲気作りに努めている。利用者が思い思いの場所で寛ぐことができるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自分のお気に入りの場所や、いつもの場所で過ごせるように工夫し配慮している	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 仏壇や使い慣れたタンスなど持ってこられたりいつでも居室で落ち着いて過ごせるように工夫している	
			(外部評価) 利用者の居室には馴染みの家具が持ち込まれたり、家族との思い出の品が飾られており、利用者が落ち着いて過ごせるよう工夫や配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 日常生活の中で不安や混乱を招くことが無い様に安全面に配慮し工夫している	